



日本形成外科手術手技学会

News Letter

第11号 2016年4月1日発行

発行 日本形成外科手術手技学会 事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12

新宿ラムダックスビル (株)春恒社内

TEL: 03-5291-6231

FAX: 03-5291-2176

— 目次 —

- * 理事長からのご挨拶
- * 第21回 日本形成外科手術手技学会 印象記
- * 受賞者抄録(最優秀演題賞)
- * 第22回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

理事長からのご挨拶

日本形成外科手術手技学会
理事長 朝戸 裕貴

本学会は形成外科にとって最も重要な「手術手技」に焦点をあてた学会であり、前身である「形成外科内視鏡手術研究会」の発足からすでに20年が経過しております。昨年のNews letterでお伝えしましたが、本学会の正式なロゴマークも決定し、これに合わせて学会のHPも充実をはかっております。

さて、去る2月13日土曜日さいたま市において、埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科教授の三鍋俊春会長のもとで、第21回日本形成外科手術手技学会が開催されました。各会場では若手の先生方も積極的に討論に参加されており、本学会が研究会時代からの自由な雰囲気を踏襲した「全国版カンファランス」として発展していることが確認できました。

日本専門医機構による専門医制度改革が急ピッチで進められ、形成外科も内科や外科と同列の基本診療科として体制を整えていくことが求められています。本学会は形成外科領域の発展に寄与すべく、今回の学術集会から専門医更新に必要な領域講習の開催を開始しました。領域講習や共通講習を効率的に受講でき、参加しやすい週末開催の全国学会であることは本学会の最大の利点であります。学会で討議されている「手術手技」という学術内容からみても、本学会の会員数(400名弱)は倍増して然るべきと考えられます。会員の先生方にはご理解をいただき、できるだけ多くの若手形成外科医に対して本学会への入会・参加をお勧めいただけますようお願い申し上げます。

2016年3月末日

第 21 回 日本形成外科手術手技学会 印象記

会長 三鍋 俊春 (埼玉医科大学総合医療センター)

第 21 回日本形成外科手術手技学会は、当学会の新しいロゴマークを冠して 2016 年 2 月 13 日(土)に埼玉県さいたま市大宮のソニックシティにて開催させていただきました。会員各位におかれましては、ご多忙の中、あるいは遠方からご参会いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、253 名(初期研修医・学生 13 名含む)の参加者を数え、盛会裏に学会を終了することができました。

今回は、「成功する手術」と銘打ち、特別講演、教育講演、2 つのシンポジウム、ビデオシンポジウムとパネルディスカッションを各 1 つ、15 の一般演題セッション、ハンズオンセミナーと 3 つのランチョンセミナーを企画しました。3 会場合わせて 100 を超える演題をすべてオーラルでいただき、興味深く楽しく拝聴できたと思えます。

特別講演では、現役若手医師でありサイエンスコンピューターグラフィックの医療分野への応用でご活躍の瀬尾拓史先生に「3 DCG は医療に本当に役立つのか?ただ格好良いだけではないのか?」をお話いただき、画期的な臓器運動の 4 次元 CG で「ミクロの決死圏」の世界を見せていただきました。昔の SF 映画が現実になりつつあると感じました。教育講演(領域指定講習)では、頭頸部癌学会理事長の林隆一先生と第 40 回同学会会長の中塚貴志先生に腫瘍外科と形成外科の成功するコラボレーションを実現した元祖である頭頸部外科の魅力を、最新の癌診断・治療とともに語っていただきました。両講演とも大変面白かったとの賛辞が多く会長に届きました。ご講演いただきました先生方に改めまして感謝を申し上げます。

シンポジウム 1 は「成功する皮弁—Anatomy based flap」(貴志和生先生企画、張学先生共同司会)、シンポジウム 2 は「女性医師による乳房再建」(岩平佳子先生企画、矢野健二先生共同司会)、ビデオシンポジウムは「下眼瞼～頬部の美容外科、フィラー vs 脱脂・脂肪注入 vs 経結膜的眼窩脂肪移動術」(百澤明先生企画司会)、パネルディスカッションは「成功する wound bed preparation～NPWT は形成外科医から手術を奪ったのか～」(市岡滋先生企画、田中里佳先生共同司会)でした。各シンポジスト・パネリストのご発表は熱が入り、そのあまり時間が超過して総合討論ができないセッションもあったくらいでした。また、ハンズオンセミナー(小川令先生企画司会、共催ジョンソンアンドジョンソン)では予定数を超える若手医師・学生が局所皮弁の実際を熱心に学習なさっていました。3 つのランチョンセミナー(共催メディカルユーアンドエー、大正富山薬品、科研製薬)は 3 会場とも満席の盛況で、最新の手術手技や基本の解剖、形成外科の役割について皆様が大変興味をお持ちであることがわかりました。企業展示は 15 社で、各ブースを回るスタンプラリーも好評でした。

学会当日は大変寒い日でしたが、会場内は朝から夕方までみっちり熱のこもった発表と質疑が行われ、あっという間の 1 日でした。私たちがはじめて主催する全国学会は、タイトなスケジュール、手狭な会場など、会員の方々にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。しかし、主役である演者、座長、聴衆が三位一体となられ、大変有意義な学会となりました。これもひとえに会員の皆様方からのご支援のおかげだと思ひ、重ねて心よりお礼申し上げます。

末筆となりますが、今後、本学会を通して日本の形成外科がますます発展することを祈願しております。

最優秀演題賞

0-39 3Dプリンタによる眼窩骨折実体モデル作成と 熱可塑性吸収性プレートの成型における工夫

- 1) 東京女子医科大学 形成外科、
 - 2) 東京女子医科大学 東医療センター 形成外科
- 菱山 潤二 (ひしやま じゅんじ) ¹⁾、井砂 司 ²⁾、中尾 崇 ²⁾、伊東 大 ¹⁾、片平 次郎 ²⁾、櫻井 裕之 ¹⁾

【はじめに】

生体吸収性プレートを用いた眼窩骨折手術は自家組織と較べてドナーの犠牲がなく、大きさや形が自由に成型しやすいという利点を有している。当科では術前CTデータを元に3Dプリンタを用いて骨折部位を含めた患側眼窩実体モデルを作成し、これを用いてプレートを成型することでより精密な再建を行い良好な結果を得たので報告する。

【対象】

2014年11月から2015年8月までに当科で眼窩実体モデルを作成し生体吸収性プレートにより再建を行った眼窩骨折9例

【方法】

術前に撮影したCT DICOMデータをBrainLab iPlan Cranial3.0.5に取り込み、患側の眼窩をauto-detectにより象ったオブジェクトを生成する。自動では骨折による骨欠損部も補完されて生成されるため、冠状断または水平断で確認しながら骨折部をオブジェクトから消去していく。できあがったオブジェクトをSTLデータに変換出力し、3Dプリンタにてアクリル樹脂を材料に実体モデルを成型した。これをプラズマ滅菌したものをテンプレートとし、術中にPLLA/PGA (Lactosorb) メッシュプレートを重ね合わせて温水中でメッシュプレートを眼窩形態にフィットするように成型する。経結膜切開にてアプローチした眼窩下壁にこれをあてがい、必要に応じてスクリュー固定を行った。

【結果】

全例で良好な整復形態が得られ、合併症は見られなかった。

【考察】

健側鏡像反転モデルなど他の方法も試行したが、完全に左右対称でないことと、骨折部を再現できないことからプレート成型は術者の直感によることになる。またプレート成型を温水中で行うことで精細なpatient specificプレートとなる。我々の行ってきた試行結果と現在の工夫点を報告する。

第 22 回日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 大西 清（東邦大学医学部形成外科）

第 22 回日本形成外科手術手技学会を東邦大学医学部形成外科で担当させていただきますこと、教室を代表して感謝申し上げます。この学会は、1996 年に「形成外科内視鏡手術研究会」という名称で創設され、第 1 回研究会が恩師 丸山 優会長の下で開催されました。その様な経緯から第 22 回の本学会長にご推挙いただき大変光榮に存じます。

さて、第 22 回の本学会は、2017 年（平成 29 年）2 月 18 日（土）に大田区産業プラザ Pio にて開催させていただきます。第 21 回三鍋会長の掲げた「成功する手術」のあとに来るテーマは何か？成功して当たり前のは何か？と考えた時、ワンランク上を目指すのが形成外科医として自然な流れであり、さらにこの学会の根幹は「創意工夫」であるとの持論から「Ideas and Innovations ワンランク上を目指して」というテーマとしました。新しい手術法や手術のデザインを考えることは苦しいことですが、あれやこれやと頭を巡らすことはある意味楽しいことでもあります。より正確な手術、よりきれいな結果を目指した沢山の創意工夫をお示しいただきましたら幸いです。会場は東京都大田区の蒲田というローカルな場所ですが、羽田空港から京急線で 10 分足らず、JR 品川駅からも京急線で 10 分足らずの京急蒲田駅の正面という、アクセスには極めて便利な場所になります。プログラムの内容はまだ白紙状態ですが、昨年流行った「下町ロケット」発祥の地でもあり、匠の技を持った多くの職人さんの集う町です。これら関連でも何か企画できればとも考えています。

会員の皆様にはあっという間に一日が過ぎるような、楽しく有意義な学会になりますよう教室員一同鋭意準備を進める所存です。多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

次年度以降の学会開催について

第 23 回日本形成外科手術手技学会

会 長：垣淵正男（兵庫医科大学形成外科教授）

日 程：2018 年

開催地：未定

※決定次第別途連絡をいたします。

第 24 回日本形成外科手術手技学会

会 長：前川二郎（横浜市立大学形成外科教授）

日 程：2019 年（平成 31 年）2 月 9 日（土）

開催地：横浜